

持続可能な社会の探究Ⅰ 経済発展と環境

理科（物理） 朝 倉 彬
地歴公民科（地理） 沼 畑 早 苗

1. はじめに

本講座は、環境問題の現状を理解し、解決方法を探るための議論・探究を行うことで、主体的に課題を発見し解決する力やコミュニケーション能力を養うことを目指すとともに、課題を解決するための具体的な方策を検討したり、他者の異なる意見をまとめたりする経験を通して、未来のグローバル・リーダーの育成をねらいとしている。

2. 今年度の活動内容

年度当初は、受講者 22 名が自ら設定した様々な探究テーマを持ち寄り、それを共有することで講座がスタートした。4 月～6 月は、課題探究を進める上で必要となる基礎的知識や論理的な思考力の基盤形成を促す時期と位置づけ、1 年次に必修グローバル地理において学習した参考文献の探し方、論文執筆のためのルール、フィールドワークの手法等の探究スキルを確認した上で、文献やインターネットでは得られない情報入手を目的に、全員で日本科学未来館を訪問しワークショップを実施したほか、生徒が自らのテーマに合った訪問先を設定し、聞き取り調査を実施した。また、地域活性化に尽力されている内閣府活性化伝道師の外部講師を招聘した授業を実施することを通じて、生徒の興味・関心を高め、主体的な学びを促していった。

7 月以降は、研究テーマが類似する生徒どうしが 5 グループに分かれ、グループ単位で課題探究を深めつつ、その内容を発信する場として、「第 18 回高校生地球環境論文賞」(中央大学主催)、「日本地理学会 2018 年秋季大会高校生ポスターセッション」、「第 21 回全国中学高校 Web コンテスト」(特定非営利活動法人学校インターネット教育推進協会主催) への作品の応募を促した。これらの取組を通して、期限を意識しながら進捗管理を行い、異なる意見・価値観を持つ他者と議論や調査等を重ね成果物をまとめ上げていくことにより、協働してより質の高い課題探究を目指すよう指導した（「日本地理学会 2018 年秋季大会高校生ポスターセッション」では 1 グループが会長賞を受賞、「第 18 回高校生地球環境論文賞」では 1 グループが佳作を受賞、「第 21 回全国中学高校 Web コンテスト」では 4 グループが最終選考を通過し、1 グループが経済産業大臣賞・プラチナ賞・オーディエンス賞、1 グループがプラチナ賞、2 グループが金賞を受賞した）。

3. 本時のねらい

2 年生（受講者 22 名）と 1 年生（次年度受講予定者 25 名）が、今年度の探究成果だけでなくテーマ設定や探究過程における苦労や失敗、成功経験を共有することで、

2年生が自身の1年間の活動を振り返るとともに、これから本格的な探究活動を始め、1年生が今後の活動の具体的なイメージを獲得し、来年度の探究活動の質的向上を図ることをねらいとした。

4. 本時の活動

午前の部 2年生「持続可能な社会の探究Ⅰ」の各講座代表生徒による成果発表
(本講座代表テーマ:「熱中症から考える地球の未来」)

午後の部 本時(13:00~14:00)

- (1) 本時のねらいを説明
- (2) 2年生による成果発表(午前の部で発表しなかったグループによる発表)
 - ・「森林保全を考える地球の未来」
 - ・「世界の水の偏在を緩和するには」
 - ・「東日本大震災の教訓から未来の防災を考える」
 - ・『企業と消費者』の視点からとらえる日本のフードロスの現状
- (3) 1・2年生合同のグループワーク
 - ① 1・2年生合同の10グループに分かれる(事前に2年生が座席表を準備)。
 - ② 講座年間スケジュールを参考にしながら、以下の項目について、1年生から2年生へインタビューを行ない、2年生は自分の経験を伝える。

i) 探究スケジュール	ii) テーマ設定	iii) フィールドワーク
iv) グループ協働作業	v) 成果の発信の仕方	vi) その他
 - ③ 途中でグループ編成を変える(2展開)。
- (4) ワークシートを用いた本時の振り返り

5. 実施効果と今後の課題

1年生からは積極的に質問が出され、それに対し2年生は自らの経験を丁寧かつ熱意を持って答えており、どのグループも活発な意見交換がなされていた。

本授業の振り返り結果から2年生は全員が「1年間の取組を振り返ることができた」、「経験者として伝えるべきことを伝えられた」を高評価としており、振り返りとしては非常に良い機会となったことがうかがえる。さらに、今回の授業ではあえて他の活動グループメンバーと組み合わせて行ったこともあり、自由記述では「自分のグループとは全く異なる状況の話を聞いて面白かった」「時間があれば他のグループの探究テーマについても考えてみたい」など講座全体の活動をより多角的に見る機会にもなった。

1年生の自由記述から、最も多く記載されていた内容が「今後の活動のイメージが具体的になった」等の内容である。実際に探究活動を経験した先輩の意見は、これから活動を行う生徒にとっては非常に有益な情報であるとともに、自分たちのオリジナルな探究活動にするための工夫をどのように促していくかが今後の課題や活動目標である。